

鳥羽河内ダムを中心とした インフラツーリズムの取り組み

糀谷 さとみ¹

¹三重県志摩建設事務所鳥羽地域プロジェクト推進室（〒517-0501 三重県志摩市阿児町鶴方3098-9）

三重県では、インフラ施設の必要性や効果の理解促進・魅力発信とともに、周辺地域の活性化や観光振興につながる取り組みとして、インフラツーリズムを推進している。現在、鳥羽市内で建設を進めている鳥羽河内ダムにおいても、その建設段階からインフラツーリズムの取り組みを行っており、本稿では2024年度までの取り組みについて紹介する。

キーワード 地域活性化、鳥羽河内ダム

1. はじめに（鳥羽河内ダム建設事業の概要）

鳥羽河内ダムは、二級河川加茂川の支川である鳥羽河内川に建設中の重力式コンクリートダムである。堤高39m、堤頂長193m、総貯水容量は約296万 m^3 で、三重県の補助ダムでは初めて建設する洪水調節専用の流水型ダムである（図-1）。



図-1 鳥羽河内ダム完成イメージ図

加茂川は、三重県東部の鳥羽市に位置し、その源を鳥羽市と志摩市の境に位置する浅間山に発し、途中鈴串川・白木川・鳥羽河内川・落口川と合流し、伊勢湾に注ぐ。流路延長約9.1km、流域面積43.3 km^2 の二級河川である（図-2）。

加茂川流域では、1959年の伊勢湾台風や、1982年・1988年の豪雨など、過去幾度となく洪水氾濫による甚大な被害が発生した。このため三重県では、1988年度から5年間で災害復旧助成事業を実施し改修区間沿川での洪水被害を軽減したが、流域としての治水安全度は十分とはいえないことから、鳥羽河内川にダムが計画されたものである。



図-2 鳥羽河内ダム位置図

鳥羽河内ダム建設事業は、1975年に実施計画調査を開始し、1997年に新規ダム建設事業として事業着手した。ダムサイトまでの進入路が狭いため、2018年1月に工事用道路の整備から着手した。また、ダム建設に伴い貯水池に沈む市道の付替道路工事も2018年3月から進めている。2024年からはダム本体建設工事に現地着手し、現在は主に基礎掘削や法面保護などを順次進めているところである（写真-1）。



写真-1 ダム本体建設工事の施工状況（2025年5月）

2. インフラツーリズムの取り組み

近年はインフラそのものを地域の観光資源として活用するインフラツーリズムが注目されており、鳥羽河内ダムでも建設段階からダムの魅力発信や地域の観光振興などを目的とし、ダムカードの配布やダムカレーの提供などの取り組みを積極的に行っている。

(1) 2023年度の取り組み

ダム本体建設工事を契約締結後、2023年11月から完成イメージ図のダムカードの配布を三重県志摩庁舎と鳥羽市役所で開始した。

2024年3月にはダム本体建設工事の現地着手にあわせ、枚数限定の記念カードの配布を行った。鳥羽市観光協会と連携し、訪問者に鳥羽市内を周遊観光をしてもらおうという狙いで、市内4箇所の観光施設で異なるカードを配布することになった。表面は鳥羽河内ダムの完成イメージ図を4分割し、全て集めると大きな完成イメージ図が完成するデザイン仕様とした。カードの裏面には、鳥羽市で厳選した観光名所の写真を印刷している（図-3・図-4）。この記念カードは枚数限定で配布を開始したが、想定より早く終了してしまう人気ぶりであった。



図-3 鳥羽河内ダム記念カードの概要（表面）



図-4 鳥羽河内ダム記念カード（裏面）

なお、三重県県土整備部では若手職員で構成する若手勉強会を立ち上げ、建設業界における先進事例の導入や働き方改革などについて研究した成果をもとに提言を行っている。ダムカードの企画立案は若手勉強会3期生による「みえインフラツーリズム」の提言の中で実現したものである。

(2) 2024年度の取り組み

2024年度には、鳥羽市・志摩市の協力を仰ぎ、「鳥羽の日」と「志摩市政 20 周年」にちなんで、10月8日に「鳥羽河内ダムカレー」の販売を開始した（図-5）。鳥羽市内3店舗・志摩市内1店舗の販売店舗は公募により決定した。地域の食材を使用し鳥羽河内ダムをイメージしたダムカレーで、店舗ごとに工夫を凝らしたオリジナルカレーとなっている。



図-5 鳥羽河内ダムカレーの概要

販売開始に先立ち10月4日には「鳥羽河内ダム認定式」を開催した。鳥羽市長・志摩市長をお招きし開催できたことで、新聞やネットニュース等に取り上げてもらえ注目度が高まったと考えている（写真-2）。

また、ダムカレーを食事していただくと、ダムカードをアレンジしたカードが貰える企画も併せて行っている（図-6）。



写真-2 鳥羽河内ダムカレー認定式



図-7 工事進捗状況情報発信（ホームページの例）



図-6 鳥羽河内ダムカレー付属カード（裏面）

4 店舗で販売を開始した鳥羽河内ダムカレーであるが、2025 年 6 月現在では 2 店舗のみの提供となり、継続していくことの難しさを実感している。新規店舗の開拓や企画内容のリニューアルも視野に、取り組みを進めていきたいと考えている。

(3) 情報発信

鳥羽河内ダムは、三重県で行うダム事業としては約 24 年ぶりのダム本体建設工事である。めったに見ることのできないダム建設現場の進捗状況を、SNS やホームページ等で動画も含めて定期的に配信している（図-7）。

臨場感のあるダム建設現場を体感してもらうことで、地域住民や関係者だけでなく広く全国に向けて、ダムの役割や魅力の発信になるのではないかと考えている。今は情報発信が主であるが、今しかない建設現場を直接見ってもらう機会を設けることも検討している。

3. おわりに

鳥羽河内ダム建設事業は、1975 年の実施計画調査着手から約 50 年の歳月を経て、2024 年からは念願のダム本体建設工事に着手したところである。この間、事業実施にあたり貴重な用地を提供していただいた地元の皆様をはじめ、事業にご協力いただいている多くの関係者に深く感謝を申し上げるとともに、近年の激甚化・頻発化する水災害の状況を踏まえ、一日でも早く治水効果が発現できるよう事業の推進を図ることとしている。

鳥羽河内ダムにおけるインフラツーリズムの取り組みは、2023 年度に若手勉強会 3 期生の提言により始まったばかりで、鳥羽河内ダムの完成まで、また完成後に向けても、継続して育てていく必要がある。今年度中にはダム本体コンクリートの打設を開始するなど、2028 年度の事業完成に向けた本格的な事業展開が予定されている。更なるインフラツーリズムの取り組みや情報発信を通じて、より多くの人にダムの役割や魅力を伝え、地域の活性化につなげていければ幸いである。